

人口問題研究

第一卷 第一號

創刊の辭

人口問題研究所長 岡田文秀

東亞新秩序建設の大旆をかざして、興亞の聖戰に邁進しつゝある我國現下の非常時局は、人口狀態及社會各般の事象に大なる變動を招來し人口問題に重大なる意義を加ふるに至つた。

抑も人口は一國々力の基礎であつて、その數及質の消長は直に國力の強弱、國運の盛衰に關する。他方に於て増加する人口に對し、食料その他の生活資料を確保することは、民政の根本であつて、之が確保に疑念を生ぜんか重大なる社會問題を生起せしめる。茲に人口問題の重要な一面がある。この人口問題の一面こそ滿洲事變及今次事變の根深き底流である。

日滿支三國を打つて一丸とする東亞の新秩序建設と云ふ、この神武天皇以來の大業に従事する我國は今や又人口問題の本來の姿に逢著した。即ち我國がよくこの長期建設の聖業に堪へんが爲には、内は優秀にして多數の人口を養ふと共に、外は東亞諸民族との協力融合を圖ることを根本條件とすることが明らかにせられたのである。

然るに輓近我國の世相を見るに、人口の都市集中、經濟及び社會上の諸變遷は、出生率の減退、國民體位の低下等

の傾向を見るに至りたるのみならず、死亡率の減退尙極めて遅々たり、青年者の死亡率は却つて遞増しつつあるものあり、識者をして憂慮に堪へざらしめるものがあるが、今次の事變の發展に伴ひ、人口の損耗、出産の減退を來し、急激なる工業化より來る衛生状態亦樂觀を許さず人口問題は複雑多岐を極むるに至つた。斯かる廣範なる諸問題を総合的に研究し以つて國策樹立に貢獻するには、從來の如き一時的の調査や各地に散在せる専門家のみを以つて足れりとせず、國立の常設機關設置の急務なること朝野の認むる所となり、昨昭和十四年八月本研究所の設立を見るに至つたのである。

斯くの如き時勢の要望に基いて創立せられたる本研究所の使命は實に重大である。

今や人口の質の向上と數の増殖とを要すること愈大にして、事變の人口に及せる影響漸く表面化し問題の重要性を加へ、我等研究所員一同其の重責に堪へざらんことを虞れる。唯この問題は悠久にして研究と共に盡きざるものなることを思ひ又國の内外に幾多先輩同好の士のあるを思ひ機關雜誌として「人口問題研究」を發刊して所員平素の調査研究の一端を發表し、些か人口問題の解決に資すると共に、天下同憂の士と切磋琢磨の機關たらしめんとする。

庶幾くは本誌の發刊が本問題に關する資料を供すると共に、我國朝野の専門家各位の吃正を受くるを得ば望外の幸である。

一言素懷を述べて創刊の辭となす次第である。